

平成29年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT29093 ことばの世界を探ろう！—その楽しさ、奥深さ、そして、怖さを体験する



開催日：平成29年7月29日(土)

実施機関：明海大学

(実施場所) (浦安キャンパス)

実施代表者：大津 由紀雄

(所属・職名) (外国語学部・教授)

受講生：中学生8名

関連URL：<http://oyukio.blogspot.jp/>

【実施内容】

○ プログラムの留意点・工夫

- 1 受講者同士による議論が十分できるように、実施代表者・分担者による講義の時間内にもグループ・ワークの時間を設けた。
- 2 実施分担者と大学院生の中に日本語以外の言語(英語、中国語、ネパール語)を母語とする人を配し、受講生が日本語と英語以外の言語にも触れ合う機会を作った。
- 3 実施代表者の専門分野は認知科学、実施分担者の専門分野は言語理論、心理言語学であり、ことばについてさまざまな視点から考えるヒントを受講生に与えるよう努めた。
- 4 今回は新設された明海大学複言語・複文化教育コモンズ(MPPEC)を利用した。その結果、講義、グループ・ワーク、発表などに対応して、さまざまな形態で椅子の配置が可能となり、実施代表者・分担者にとっても、受講生にとっても、格段に活動しやすくなった。

○ 当日のスケジュール

- 10:00 – 10:30 受付 (MPPEC)
- 10:30 – 11:00 開講式 (開講のあいさつ、オリエンテーション、科研費の説明)
- 11:00 – 11:40 講義「ことばの世界を探ろう」(大津由紀雄)
- 11:40 – 12:00 質疑応答およびグループ・ワーク
- 12:00 – 13:00 昼食
- 13:00 – 14:00 分担者による講義と質疑応答
- 14:00 – 14:10 休憩
- 14:10 – 15:10 受講者によるグループ・ワークと発表
- 15:10 – 15:20 休憩
- 15:20 – 15:40 まとめの講義 (大津由紀雄、分担者)
- 15:40 – 16:10 修了式 (アンケート記入、未来博士号授与)
- 16:10 解散

## ○ 実施の様子



写真1



写真2

実施代表者による講義では、「ことばの世界を探ろう」というテーマに関心を持った受講生にことばの多様性と普遍性についてできるだけわかりやすく語り、考えるヒントをちりばめた。ことに、ことばに関する見えない世界の話(文構造の抽象性、談話における推論の重要性など)については講義後や休憩時間に多くの質問が寄せられた。

昼食は別会場を利用し、受講生がなるべく多くの人と話すことができるように、講義時の席とは違った座席配列とした。また、結果として、各テーブルとも大いに話に花が咲いた。

実施分担者による講義も一人一人の個性が生かされたもので、受講者にとって興味深いものであった。野村氏と瀧田氏は理論言語学(言語表現は構造を持つこと、文構造のあいまい性)、Nakamura氏は心理言語学(談話能力の発達)について語った。Nakamura氏は母語である英語と第二言語である日本語を駆使して講義を行った。

グループ・ワークの発表では代表者がコーディネーターとなり、受講生の考えたところを整理した。

修了式では未来博士号授与を授与した後、代表者と分担者が受講者に向けたはなむけのことばを語り、そのあと、受講者からの感想を聞いた。

本報告書冒頭の写真は実施代表者による講義、上の写真1はグループ・ワーク、写真2はグループ・ワークの結果の発表の様子を撮ったものである。「プログラムの留意点・工夫」の4に記したように、椅子の配置の自由度が高い会場の利点を活かすよう工夫した。

写真2に写っているように、会場の前面は液晶プロジェクタの投影スクリーンとして利用できるだけでなく、広いホワイトボードとしても活用することができる。また、グループ・ワークのグループごとに可動のホワイトボードを用意したので、各グループの発表を効果的に行うことができた。

今回は実施代表者・分担者・院生・事務職員が一体となって、この企画を盛り上げるため、力を結集したことが成功の大きな要因であったと考える。

## ○ 事務局との協力体制

プログラムの立案から実施まで庶務課を中心として大学事務局と綿密な連絡を取り合い、どの局面においても最大限の協力を得ることができた。

## ○ 広報活動

企画広報課の協力を得て、大学公式HPやFacebookに関連記事を掲載した。同時に、多くの定期閲覧者がいる、実施代表者のブログに関連記事を掲載し、その記事をFacebookに転載した。その結果、元記事は多くの人々によってシェアされた。また、ポスターの掲示(約30枚)やビラの配布(約500枚)を行った。

## ○ 安全配慮

開講式で、地震などが発生した場合の避難方法について詳しい説明を行った。また、学内の保健管理センタ

一と連携し、受講者が体調不良となった場合の処置についても万全を期した。

○ 今後の発展性、課題

実施代表者が明海大学に着任した初年度の実施以来、受講者の数は着実に伸びていったが、今回は8名と受講者の数が少なかった。広報活動に緩みがあったとは考えられないので、ここ2回ほどの英語という具体的な個別言語をテーマに掲げた場合に比べ、「ことば」という抽象概念が中学生の関心と呼ばなかったのではないかと考えられる。来年度はことばという抽象的概念に十分配慮しつつも、日本語や英語など、受講者に馴染みのある個別言語を前面に出すことによって、より多くの中学生の心に訴える企画にしたい。

【実施分担者】

瀧田 健介 外国語学部・准教授  
Keiko Nakamura 外国語学部・准教授  
野村 忠央 複言語・複文化教育センター・講師

【実施協力者】 9 名

【事務担当者】

竹部 正樹 浦安キャンパス事務部庶務課・課長  
池田 朋子 浦安キャンパス事務部庶務課・主幹  
二瓶 美里 浦安キャンパス事務部庶務課・主任